

第4回 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会 次第

日時：令和6年3月13日（水）14時00分～

場所：加茂市役所3階 301・302 会議室

0. 配布資料の確認／ 事務局

- (1) 次第
- (2) 委員名簿
- (3) 第3回エリアプラットフォーム準備協議会議事要旨
- (4) 第5回ワーキンググループ議事要旨
- (5) 令和5年度の検討内容のまとめ
- (6) 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム規約(案)
- (7) 参考資料1) 官民連携まちなか再生推進事業 事業概要一式
- (8) 参考資料2) 第5回ワーキンググループ 資料一式

1. 開会／ 14：00～14：10

- (1) 挨拶／ 加茂市長 藤田 明美
- (2) 議事内容等の説明／ 事務局

2. エリアの目指すビジョンの検討とその実現に向けて／14：10～15：10 事務局

- (1) 第3回協議会の振り返り／資料(3)
- (2) 第5回ワーキンググループでの協議内容について／資料(4)
- (3) 令和5年度の実施状況及び令和6年度の実施方針について／資料(5)
- (4) エリアプラットフォームの設立について／資料(6)

3. 質疑応答及び意見交換／ 15：10～15：50

4. 事務連絡／ 15:50～16:00 事務局

- 集合写真撮影

※会場内で行います。レイアウト変更のため、少々お時間を頂戴します。

5. 閉会

第4回 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会 委員名簿

※ 2024.3.12 【確定】

(順不同・敬称略)

	氏名	所属	等出	欠備	考
1	木戸 信輔	加茂商工会議所 会頭	代理出席	まちづくり委員 堀内 大祐	
2	田邊 良夫	加茂市商店街協同組合 理事長	出席		
3	萩野 正和	株式会社connel 代表取締役	出席		
4	松井 大輔	新潟大学工学部工学科 准教授	出席		
5	加藤 はと子	全国「道の駅」女性駅長会 会長	出席		
6	高 澤 浩	第四北越銀行 加茂支店 支店長	出席		
7	杵 鞭 久	加茂信用金庫 理事長	出席		
8	小 林 一 隆	NST新潟総合テレビ 情報制作本部 デジタルマーケティング部 部長	出席		
9	市 川 恭 嗣	加茂市 CSO	出席		
10	渋谷 美 浩	新潟県三条地域振興局 局長	出席		
11	西 村 太 佑	加茂青年会議所 理事長	出席		
12	横 山 泰	新潟経営大学 地域活性化研究所 所長	代理出席	副所長 落合 純	
13	若 月 守	NTT東日本 新潟支店 副支店長	出席		
14	藤 田 明 美	加茂市長	出席		



令和5年度の検討のまとめ

1	検討の背景と目的	2
2	対象エリア	3
3	検討の経過	4
4	エリアプラットフォームの構成	8
5	次年度のスケジュール（案）	9
6	エリア内の強み・弱み・機会・脅威	11
7	まちなかエリアの現状	12
8	現状・課題に関するWGでの意見交換結果	20
9	エリアの課題	22
10	ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果	23
11	未来ビジョンの再構成（案）	28

令和6年3月13日

第4回加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会

1 検討の背景と目的

(1) 背景

- R3加茂市総合計画にて「人が集い、賑わいと活力があふれ稼ぐ力と雇用を生み出すまち」を目指すための方策として加茂駅周辺のまちなかエリアの市街地活性化が明示。



- 加茂市全体の活力をけん引していく最も重要な拠点として位置づけられるべきエリア



- エリア内での様々な主体の取組が個々にではなく、それらの連携によるエリアの価値向上が必要



- エリア内の課題解決や賑わい創出の取組を戦略的・継続的に推進するため、官民の垣根を超えた様々な主体が参画する枠組み（エリアプラットフォーム）を構築
- 官民を問わない様々な主体が将来像を共有し、その実現に向け官民連携で取り組む「未来ビジョン」を策定

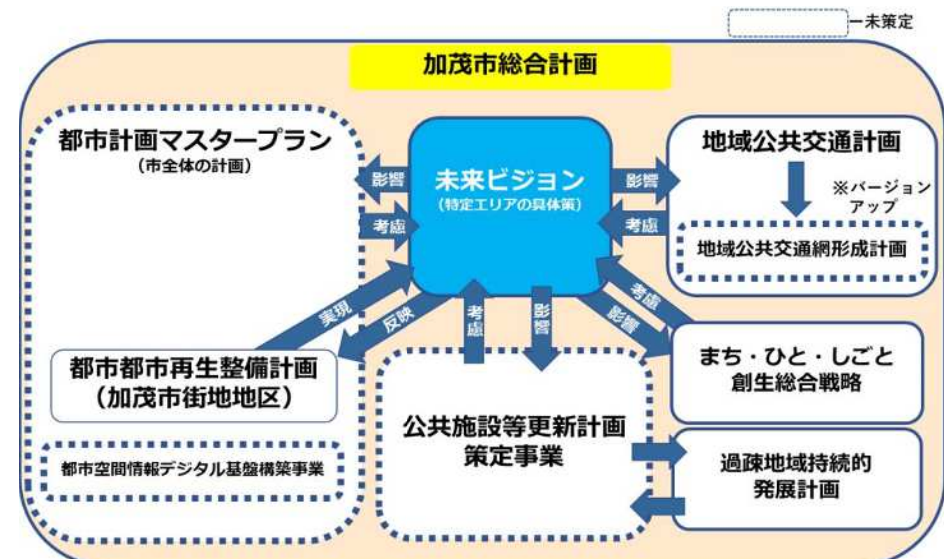
(2) 目的

- 「エリアプラットフォーム」を構築し、多様な主体が同じ方向でまちづくりを進めるため「未来ビジョン」を策定。



- 未来ビジョンの実現に向け、エリアプラットフォームが方向性の舵取りを担い、多様な主体による相互連携を促すことで、持続的に賑わいと活力あふれるエリアを推進

(3) 未来ビジョンの位置付け



2 対象エリア

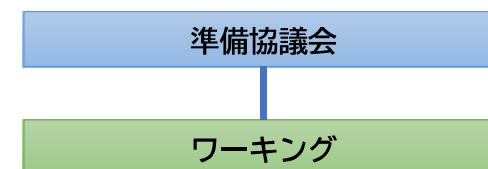
- 加茂川と加茂山公園を含む、JR加茂駅から東に約1kmにわたる商店街を中心としたエリア



3 検討の経過

①概要

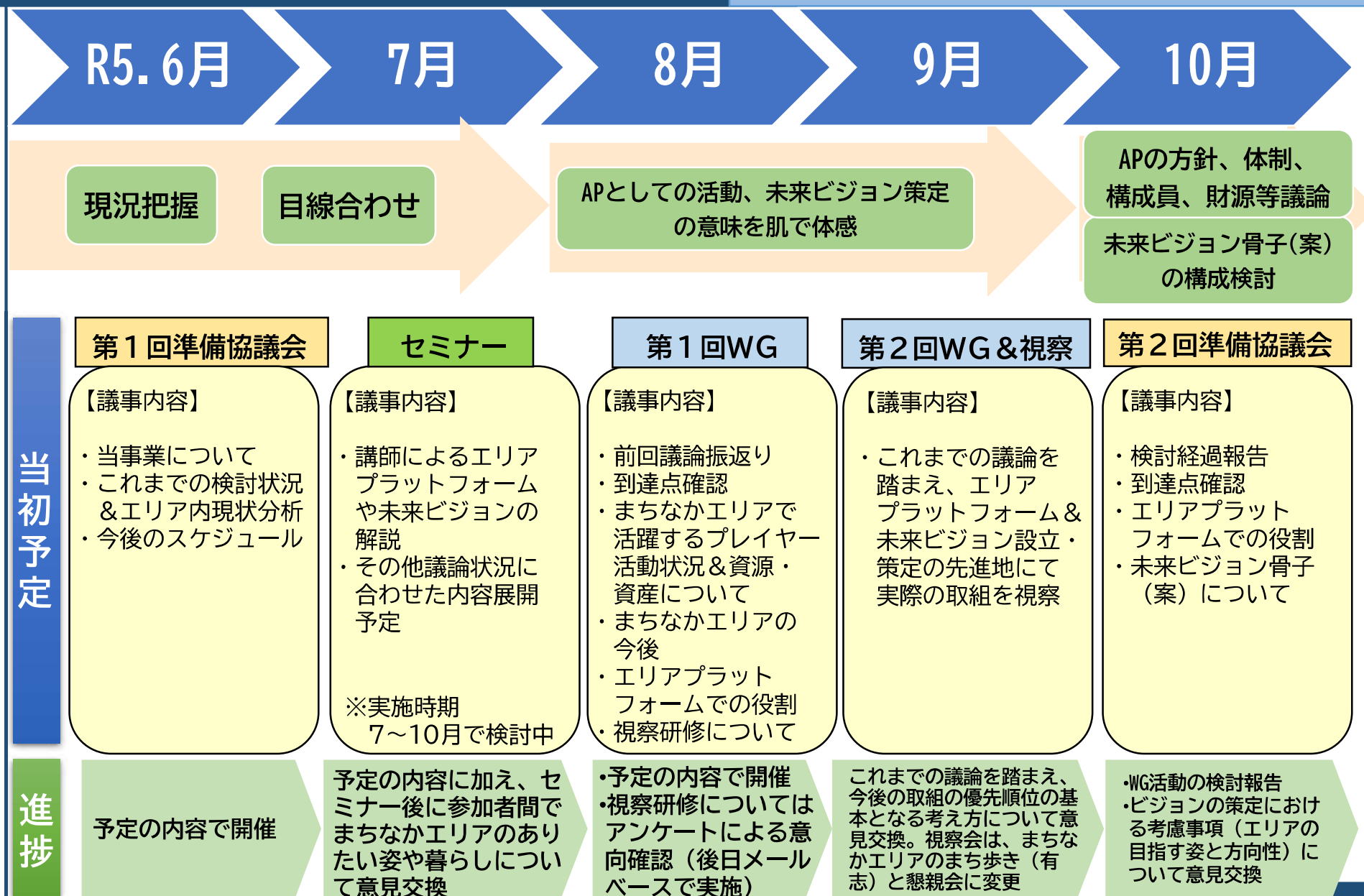
- 「加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会」（以下「準備協議会」）を設置するとともに、協議会の下に「加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームワーキング」（以下「ワーキング」）を設置。
- ワーキングでは、検討を進める上で必要な知見等を共有するセミナーを開催した上で、対象エリアの課題、将来像等について意見交換し、検討成果を準備協議会に報告。
- 準備協議会はワーキングの検討成果に対して、更なる検討のための視点等を提示し、それらを踏まえて、ワーキングで検討。



	準備協議会	ワーキング
令和5年6月28日	第1回準備協議会	
令和5年8月8日		セミナー開催（講師：萩野委員）
令和5年8月29日		第1回ワーキング
令和5年10月2日		第2回ワーキング
令和5年10月30日	第2回準備協議会	
令和5年11月20日		第3回ワーキング
令和5年12月7日 ～12月12日		ワーキングを3グループに分け、各グループで個別会議
令和5年12月18日		第4回ワーキング
令和6年1月16日	第3回準備協議会	
令和6年2月20日		第5回ワーキング
令和6年3月13日	第4回準備協議会	

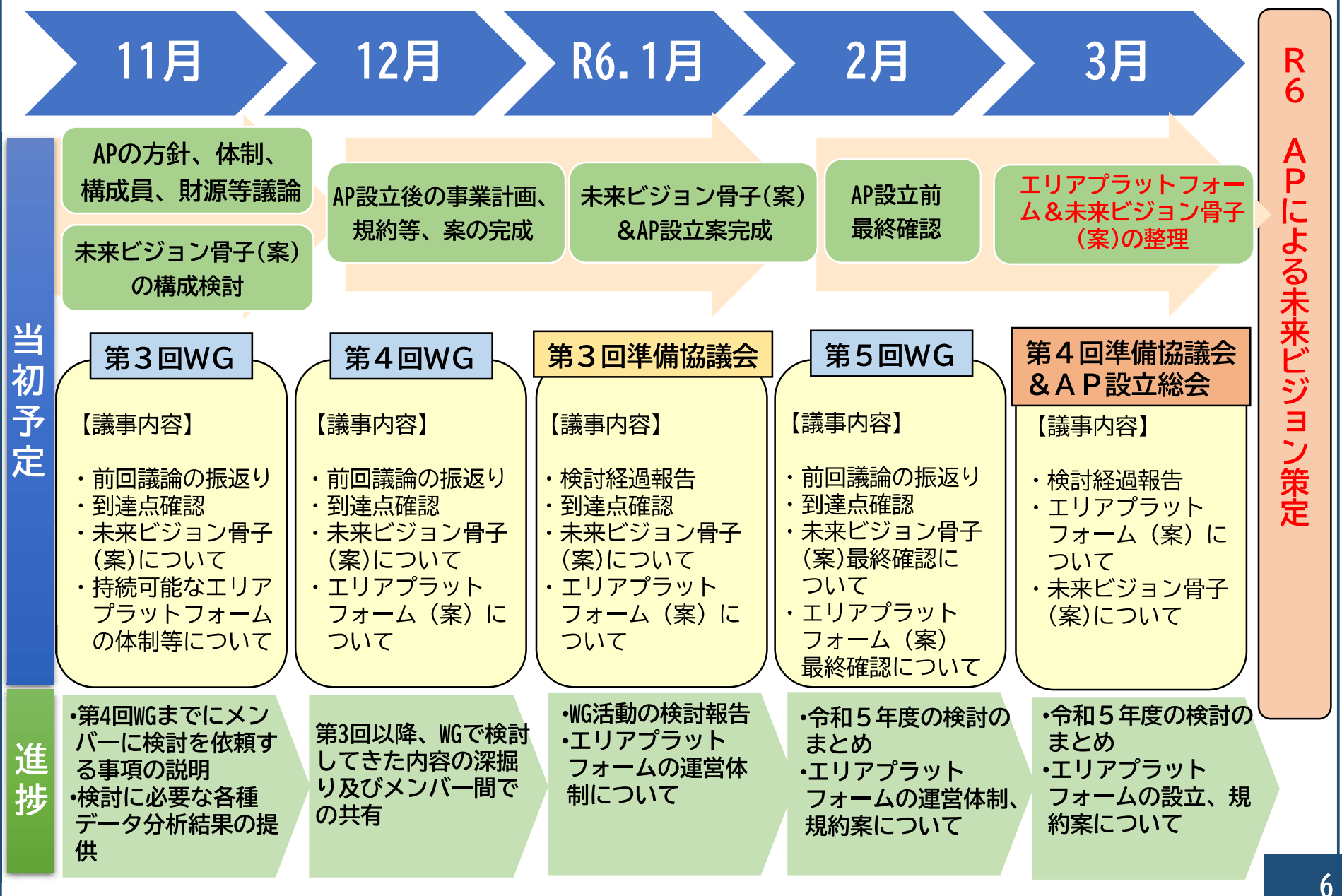
3 検討の経過

②進捗状況



3 検討の経過

②進捗状況



【エリアプラットフォームについて】

■今年度の検討予定の変更

- エリアプラットフォームについては、第3回WG（令和5年11月）の「持続可能なエリアプラットフォームの体制等について」から検討を始める予定であった。
- しかし、未来ビジョンが検討途上（令和6年度完成予定）である中、まちなかエリアの将来像や具体的な取組が共有されていない状態で、エリアプラットフォームの体制を切り出して議論することは難しく、むしろまちなかエリアの将来像（キャッチフレーズ等含む）について深掘りすることが重要と判断した。

■次年度以降の予定

第1ステップ

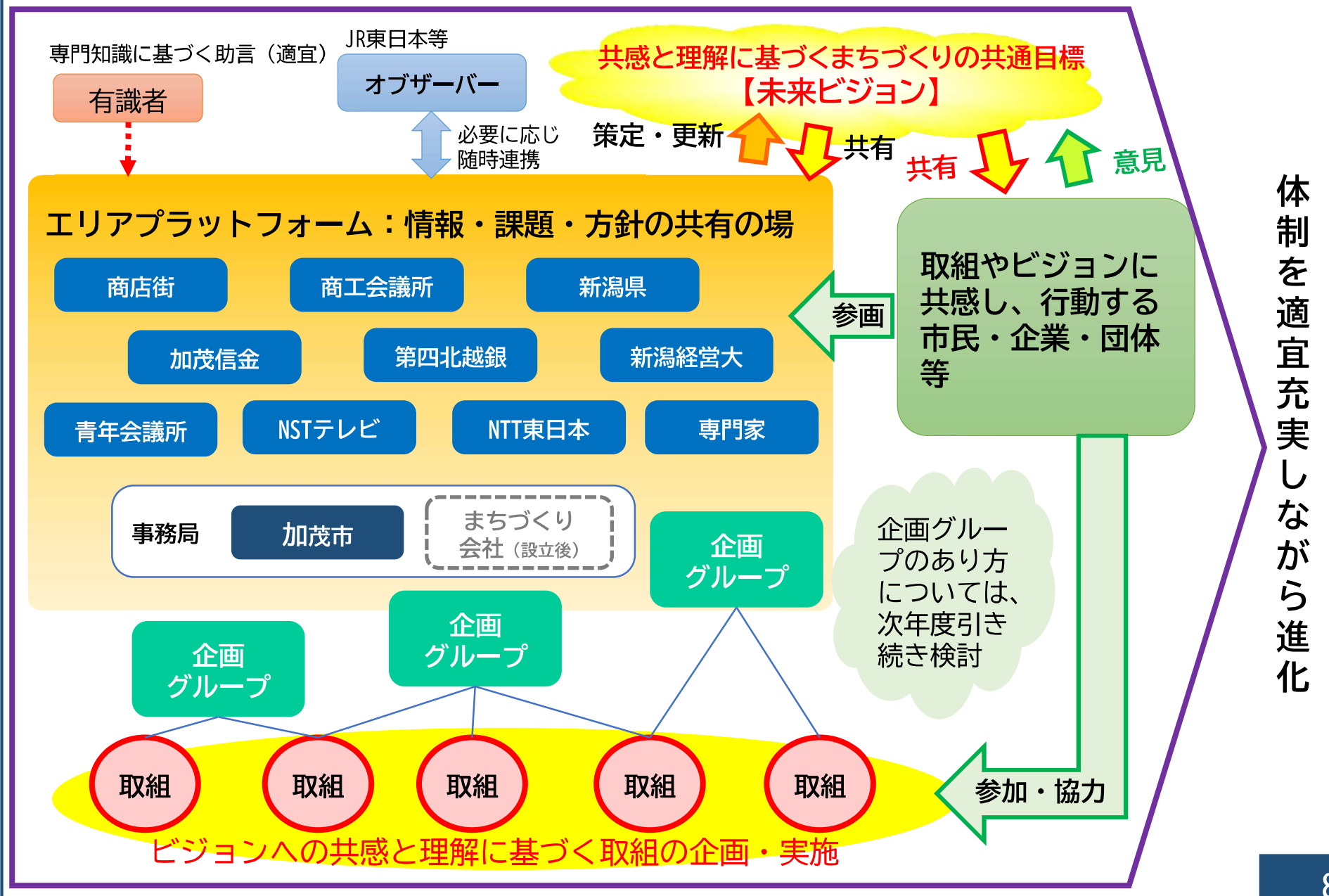
- 令和5年度中にエリアプラットフォームを設立
⇒ミッション：未来ビジョンの完成（令和6年度前半までを予定）
⇒運営等の事務局機能は行政が担う

第2ステップ

- 未来ビジョンの完成以降（令和6年度後半予定）は、将来像や今後取り組むべき具体的な内容（取組の優先順位や役割分担等含む）が共有されることから、エリアプラットフォームの運営体制等についても再度検討が必要
⇒意思決定や新たなメンバーの参加等の運営ルール
⇒運営に活動資金が必要であれば、そうした資金の確保方法
⇒運営について誰が主体となるのかの検討 など

《エリアプラットフォームを実際に運営する中で体制を適宜充実しながら進化》

4 エリアプラットフォームの構成 (第1ステップ)



5 次年度のスケジュール（案）

R6.5月

R6.10月

未来ビジョンの検討

未来ビジョンの決定

第1回WG

【議事内容】

- ・未来ビジョンの構成（章立て及び記載内容等）
- ・未来ビジョンに紐づける既存及び新規の取組
- ・まちなかエリアにおける令和6年度のイベント等の情報共有

第2回WG

【議事内容】

- ・未来ビジョン素案（第1回WGでの議論を踏まえて）
- ・未来ビジョンの広報・情報発信（シンポジウム等）について

第1回全体会

【議事内容】

- ・未来ビジョン素案
- ・未来ビジョンの広報・情報発信（シンポジウム等）について

第3回WG

【議事内容】

- ・未来ビジョン案（市民意見を反映した最終案）
- ・未来ビジョンの広報計画案

第2回全体会

【議事内容】

- ・未来ビジョン
- ・未来ビジョンの広報計画案

※スケジュールは現時点での予定であり、今後、状況により変更する場合もある

市民意見の募集と反映

5 次年度のスケジュール（案）

R6.11月

R7.3月

未来ビジョンの実現に向けてエリアプラットフォームとして取り組む内容や体制の検討

令和8年度上半期で
実施する取組の準備

第4回WG

【議事内容】

エリアプラットフォームの
・果たすべき役割
・支援する取組
・求めるメンバー像
・活動資金の確保方法
など

第5回WG

【議事内容】

・未来ビジョンの実現
のためにエリアプ
ラットフォームで
取り組む内容
(第4回WGでの議
論を踏まえて)

第6回WG

【議事内容】

・未来ビジョンの実現
のためにエリアプ
ラットフォームで
取り組む内容
(第5回WGでの議
論を踏まえて)

第3回全体会

【議事内容】

・次年度事業計画案
・エリアプラット
フォーム規約改定案

第7回WG

【議事内容】

・事業計画に基づく
取組について
(企画グループの立
ち上げなど)

WGの検討結果を踏まえて
事務局で資料作成
・事業計画案
・規約改正案 など

※スケジュールは現時点での予定であり、
今後、状況により変更する場合もある

6 エリア内の強み・弱み・機会・脅威

エリアの現状

強み

- ・コンパクトで歩きやすい環境
(全天候型ウォーカブル空間の商店街、商店街～加茂山～加茂川)
- ・ゆったり、ゆったりとした、ホッとできる都市環境
- ・人口比に対する駅利用者数が多い(高校生等若者)
- ・賑わい創出に活用できる歴史的文化財が点在
(青海神社、歴史的建築物、谷通り：懐かしい雰囲気、街並み等)
- ・商店街は個性的な店舗があり、スーパーや医療施設等の日常生活を支える都市機能が集積
- ・魅力的で癒しのオープンスペースである加茂川、加茂山
など

弱み

- ・ヒトの滞留や回遊が生まれにくく、賑わい創出や消費活動に結びつかない
(例：駅利用者が商店街を利用しない、若い世代の加茂の良さが知られていない、若者の居場所が不足、まちなかの情報が発信されていない、鉄道で駅の東西が分断等)
- ・観光客のピーク時に、それを活かす環境ができていない
(例：宿泊施設、駐車場の不足・認識しにくい、加茂の名物を購入できる店舗等)
- ・商店街空間らしいデザイン配慮不足
- ・バリアフリー化できてない駅舎
- ・加茂山公園は家族のお出かけ場として魅力不足
- ・子ども連れで過ごせる場所が不足
- ・駐車場が使いにくい(狭い)、わかりにくい

社会情勢の変化や新たなニーズ

機会

- ・コロナ禍での社会変容
(例：屋外利用価値向上、リモートワーク、DX等)
- ・移住、二拠点居住トレンド
- ・地方創生ブーム
- ・インバウンド、国内観光需要の復活
- ・地域の日常を楽しむ暮らし観光
- ・高齢化を背景とした歩いてく暮らせるまちづくり、健康まちづくりへのニーズ
など

脅威

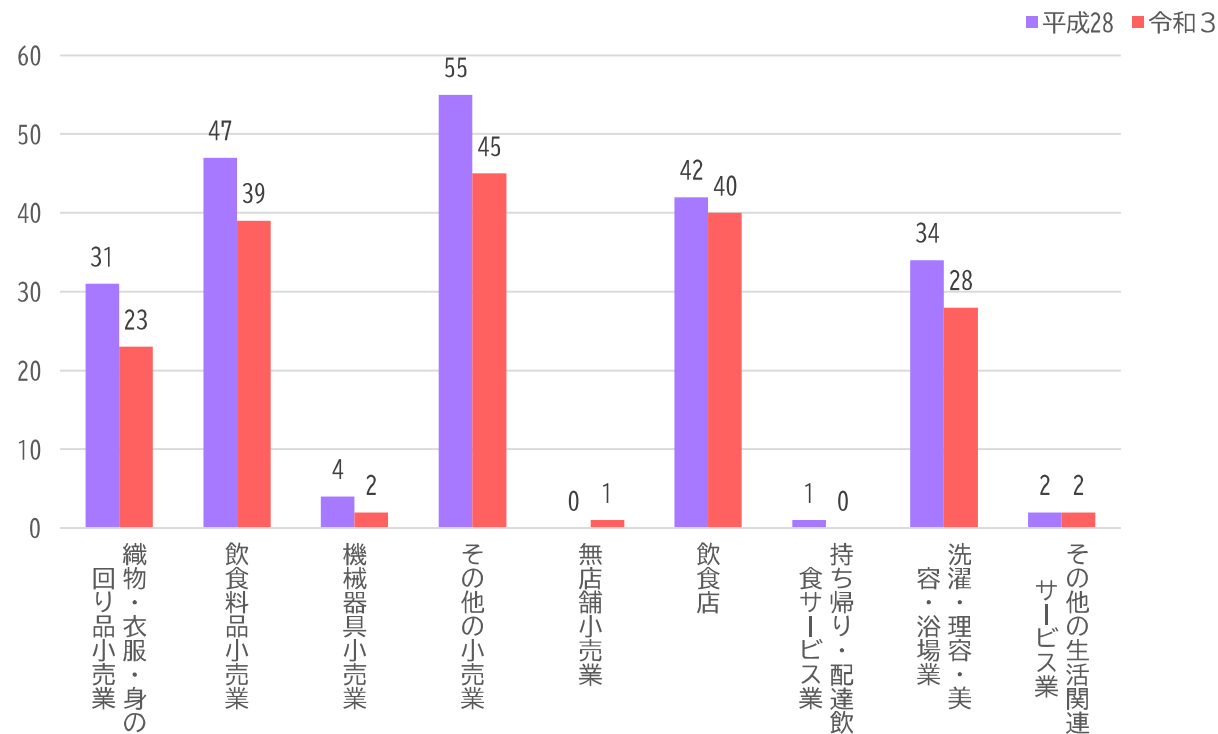
- ・高齢化・人口減少、世帯減少
→店舗廃業リスク
→空き家・空き店舗・空きスペースなど
既存ストックの遊休化
- ・単身高齢世帯(孤独な高齢者)の増加
- ・若い世代の転出超過の継続
- ・施設の老朽化
- ・小売業の販売方法変化(高齢店主ではECやDX対応が難しい)
- ・オーバーツーリズムへの懸念
など

7 まちなかエリアの現状

①商店街の業種構成の変化

- 過去5年間で飲食店は2店舗の減少に留まっているが、日用品である飲食料品小売業及び買い回り品である織物・衣服・身の回り品小売業は8店舗減少。
⇒日常を支える機能の衰退は、**更なるまちの価値の低下**を引き起こす。

■まちなかエリアの商業・サービス関連の業種構成
(店)



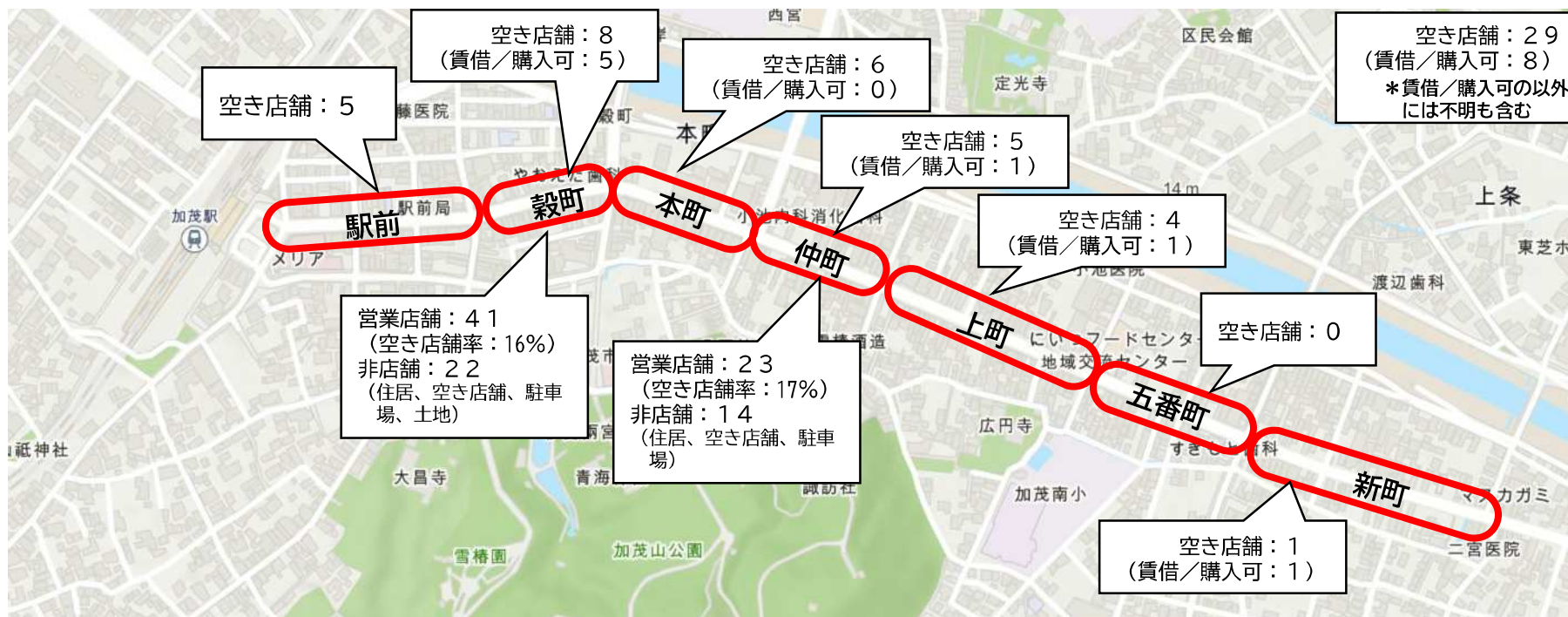
※五番町、駅前、穀町、上町、新町1・2丁目、仲町、本町の値を集計

7 まちなかエリアの現状

②商店街の空き店舗の状況

- 空き店舗（29店舗）のうち賃借／購入可は8店舗。
- 住居等の非店舗化も進行。
- 空き店舗に対しては「加茂市空き店舗対策事業費補助金」により有効活用を支援。
⇒空き店舗の有効活用に向けた**物理的・心理的ハードルを解消**することが重要。

■商店街の空き店舗の状況



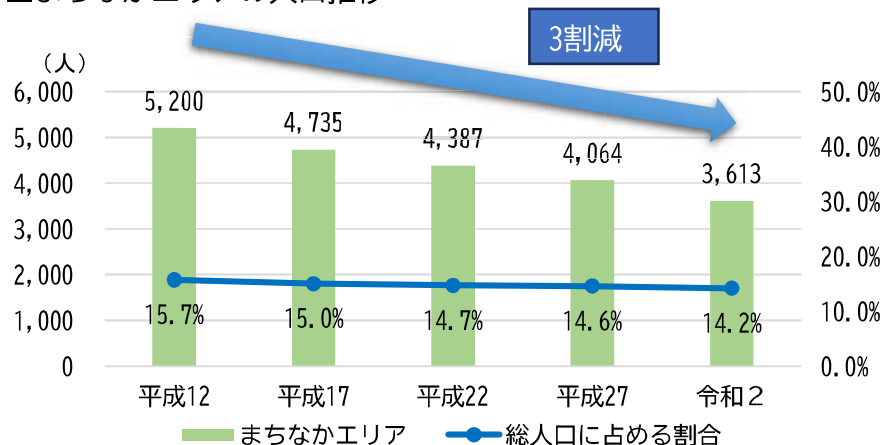
出典：「商店街空き店舗調査」（令和5年4月1日）を基に作成

7 まちなかエリアの現状

③まちなかの人口の推移

- 過去20年間でまちなかエリアは人口が3割減、上町、五番町、新町1・2丁目は4割減。
⇒道路整備などこれまで投資してきた**既存ストック**が**生かされていない**。
- まちなかエリアの人口の5年前の居住地を見ると1割が転居人口（エリア外からの転入）。

■まちなかエリアの人口推移

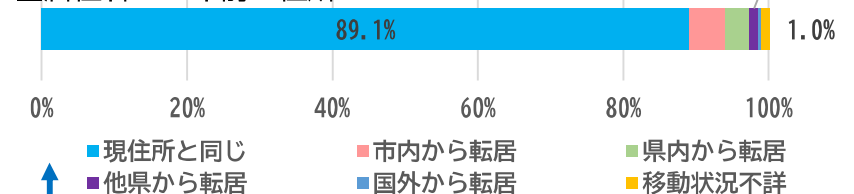


町丁目	平成12	平成17	平成22	平成27	令和2	令2/平12	令2-平27
本町	150	131	120	110	103	-31.3%	-47
仲町	275	262	228	219	204	-25.8%	-71
上町	500	445	396	337	295	-41.0%	-205
五番町	699	582	527	471	419	-40.1%	-280
新町一丁目	484	441	416	363	295	-39.0%	-189
新町二丁目	432	401	351	293	237	-45.1%	-195
穀町	365	343	305	274	237	-35.1%	-128
駅前	271	212	224	189	181	-33.2%	-90
番田	405	373	404	405	380	-6.2%	-25
寿町	774	759	744	785	724	-6.5%	-50
松坂町	467	441	367	331	269	-42.4%	-198
岡ノ町	378	345	305	287	269	-28.8%	-109
合計	5,200	4,735	4,387	4,064	3,613	-30.5%	-1,587

■まちなかエリアの町丁目別の人口変化（平成12～令和2年）



■居住者の5年前の住所



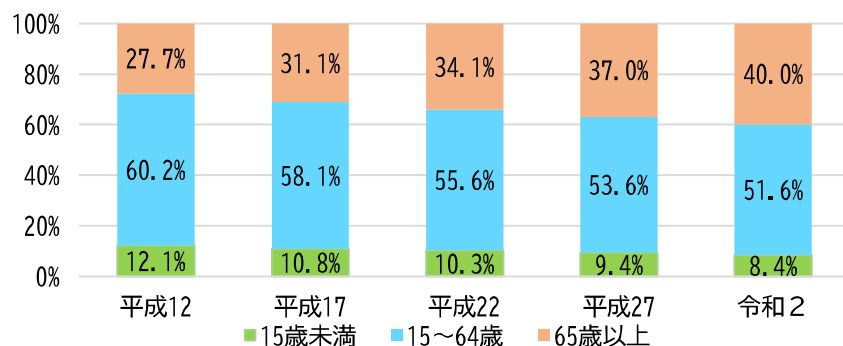
出典：総務省「国勢調査」を基に作成

7 まちなかエリアの現状

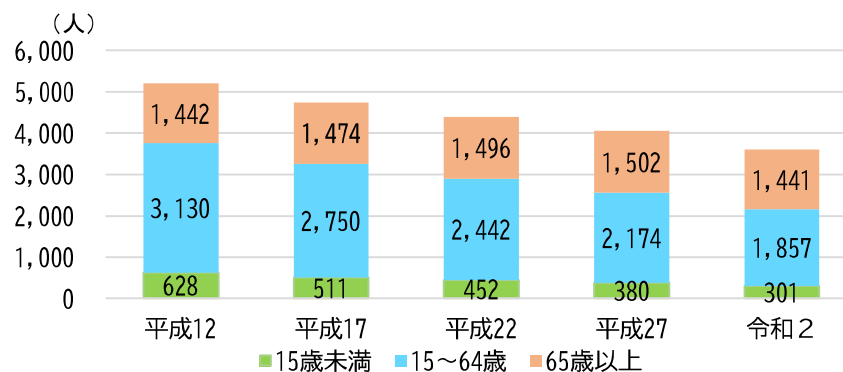
④高齢化の状況

- 過去20年間でまちなかエリアの高齢化率は28%から40%に増加し、新町二丁目は概ね2人に1人が高齢者（高齢化率：49%）。
- 過去20年間で15～64歳人口は4割減、15歳未満人口は半減。
⇒高齢者が暮らし続けられると同時に若い世代が住みたいと思うまちづくりも重要。

■まちなかエリアの年齢別の人口割合の推移



■まちなかエリアの年齢別の人口の推移



■まちなかエリアの高齢化率の推移

町丁・字等	平成12	平成17	平成22	平成27	令和2	令2-平12
本町	24.7%	29.0%	30.1%	39.1%	35.0%	10.3
仲町	35.6%	39.3%	43.0%	42.9%	43.6%	8.0
上町	29.4%	31.9%	36.1%	41.5%	43.1%	13.7
五番町	29.8%	30.8%	37.2%	43.1%	46.8%	17.0
新町一丁目	26.4%	31.1%	35.8%	37.7%	41.7%	15.2
新町二丁目	33.3%	37.4%	38.7%	39.6%	48.5%	15.2
穀町	32.1%	32.1%	34.8%	36.9%	40.9%	8.9
駅前	22.9%	28.3%	31.7%	34.4%	38.1%	15.2
番田	19.3%	24.9%	25.2%	27.2%	31.8%	12.6
寿町	22.4%	27.9%	30.9%	32.7%	33.0%	10.7
松坂町	30.4%	30.8%	31.6%	36.3%	44.2%	13.8
岡ノ町	28.6%	33.0%	36.7%	40.4%	40.9%	12.3
合計	27.7%	31.1%	34.1%	37.0%	39.9%	12.2

出典：総務省「国勢調査」を基に作成

7 まちなかエリアの現状

⑤加茂川の滞在人口

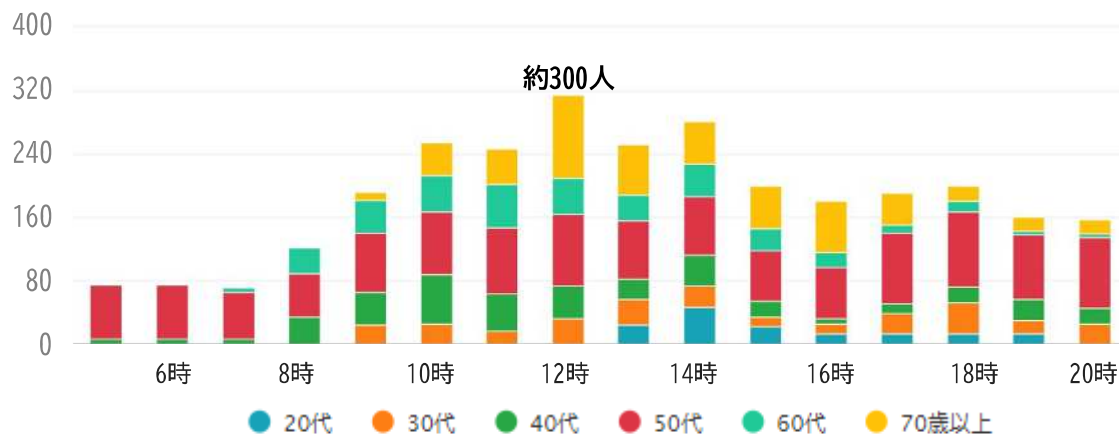
- 携帯電話位置情報では、加茂川周辺には、平日は10時から12時頃に約300人の滞在者が観測され、休日は10時から14時頃に250～300人程度の滞在者が観測された。

■滞在人口のR5年10月の一日平均（平日・休日）

通常時（平日）



通常時（休日）



データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

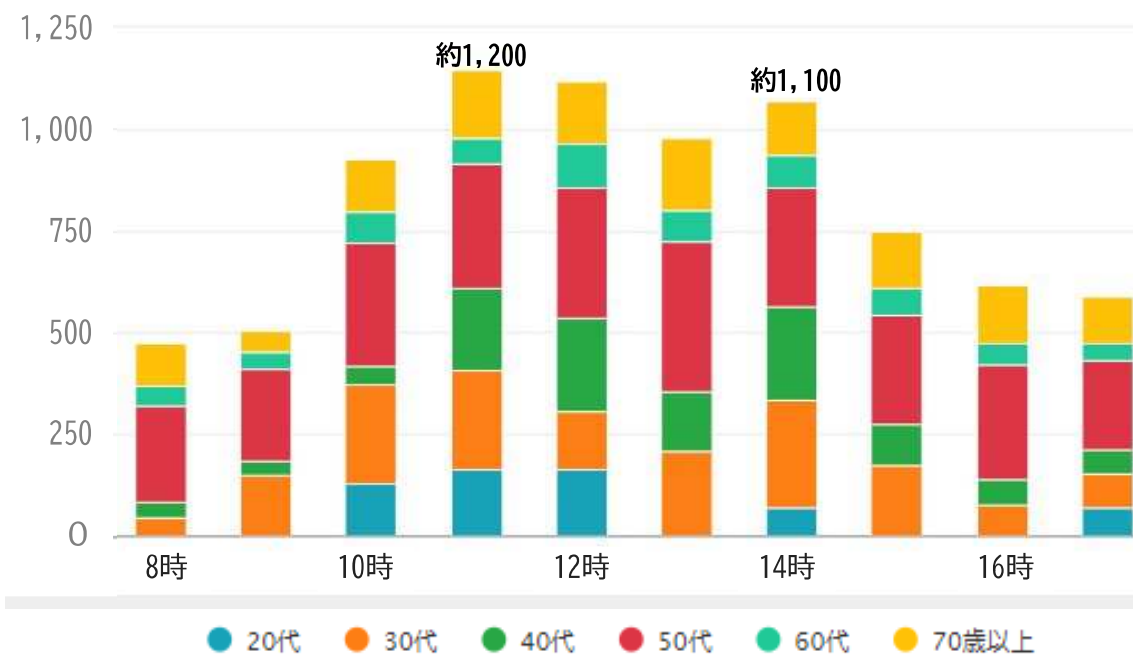
※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

7 まちなかエリアの現状

⑥加茂川を泳ぐ鯉のぼりの入込客数

- 携帯電話位置情報では、11時から14時台で1日平均約1,200人の滞在者が観測され、参加者層としては、50代が最も多く、その他の世代も一定数観測された。

■加茂川を泳ぐ鯉のぼり（5/3～5）の滞在人口



◆5/3～5/5のキッチンカー売上

飲食：40万円／1日

※キッチンカー3台の合計
※提供メニューは焼きそば、
かき氷、から揚げ、
クレープなど

物販：12万円／1日

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

7 まちなかエリアの現状

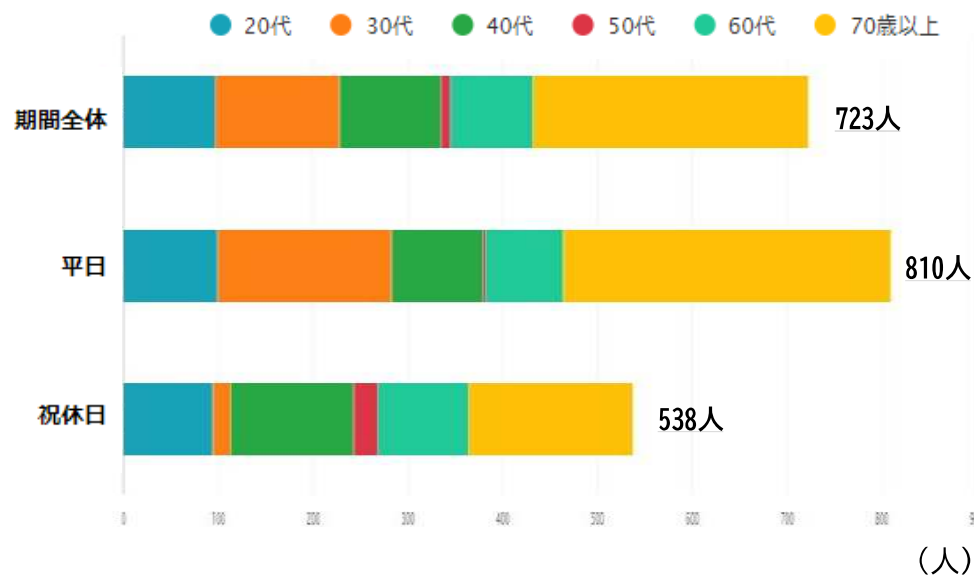
⑦加茂山公園周辺の滞在人口

- 令和5年10月では、**1日利用者は720人／日前後**で平日に比べ**休日の利用者が少ない**。
- 加茂市体育館周辺～青海神社・リス園が滞在の中心で、年齢別では**約半数が60代以上**。

■加茂山公園の滞在人口（令和5年10月の1か月）



■加茂山公園の年齢別滞在人口（日平均）



データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

7 まちなかエリアの現状

⑧雪椿まつり時の通行者数

- 第57回雪椿まつり期間（4月2日～5月7日）の通行者は、商店街（県道加茂停車場線）を経由したルート、公園駐車場を経由したルートが多い（駅前路線の通行者は少ない）。
- 期間中の通行者は、**イベント等が開催される祝休日が多い。**

■加茂山公園周辺の通行人口（令和5年4月2日～5月7日、徒歩）



P：公共駐車場

■加茂山公園周辺の通行人口（令和5年4月2日～5月7日、期間全体、徒歩）

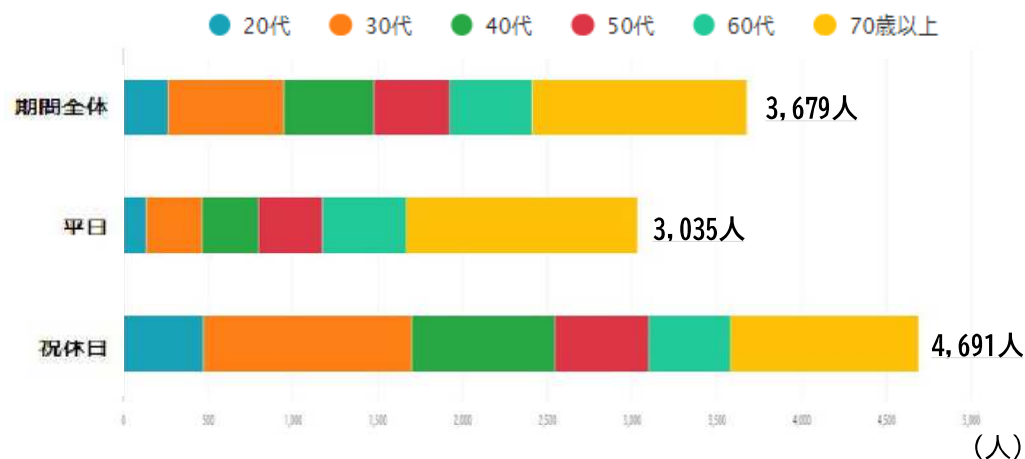
居住者	勤務者	来街者	合計
163人 (4.4%)	24人 (0.6%)	3,492人 (95.0%)	3,679人

「居住者」：直近1か月の夜間（22～29時）の最頻滞在地が集計範囲の人

「勤務者」：直近1か月の昼間（8～19時）の最頻滞在地が集計範囲の人

「来街者」：上記以外の人

■加茂山公園周辺の年齢別通行人口（令和5年4月2日～5月7日、徒歩、日平均）



データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

8 まちなかエリアの 現状・課題に関するWGでの意見交換結果

商店街の人の目線でのイメージ

- 商店街の人にとっては暮らしがメイン。
- 暮らし：観光割合＝7：3～8：2のイメージ。
- 昔は本当に便利なまちで、今でも、値段を気にしなければ大体のものが揃うのではないかな。
- 市民は商店街に対し、観光のイメージは抱いていない印象。
- 空き店舗でも住居として利用されている建物が多い。
- 加茂の人が「観光客はそんなに多くなくていい」というのを耳にしたことがある。

西加茂など加茂市民の目線でのイメージ

- 西加茂住民の視点の商店街は、暮らしというよりは交通の要衝、飲みや遊びに来る場所のイメージ。
- 「暮らし色」か「観光色」かのどちらかではなく、駅周辺と駅から離れたところでは違うのではないかな（グラデーションのような色分けではないかな）。
- 加茂ナイトバザールの際、21台もキッチンカーが来たのにも関わらず長蛇の列で、売切れも出ており、潜在需要の現れではないかな。

商店街が直面している問題点・課題

- 日常生活における需要に対し、商店街や駅前エリアにおける供給が不足していると思う。
- 例えば、お惣菜やトイレトペーパーなどの日用品を買えるところが少ない。
- 人口が減って近所のお客さんが少なくなったこと、店主が高齢になったことの両方が背景にある。
- 商店街の人、商店街以外の店舗（郊外のチェーン店等）で買い物
- 高齢者の方を除けば、買い物客は少ない。
- イベント客が商店街の客になっていない。
- 飲食店と日用品を販売している店舗では、イベントの効果が異なる。
- 加茂市商店街では、空き店舗が増加し、10年後にはさらに増加すると想定される。
- その中で商店街を「暮らし」の支えとする必要が本当にあるのか、投資する必要があるのか（商店街を残す必要性があるのか）。
- 家族に借金を残さずお店を畳むという「最高の終焉」を迎えたいというお考えの方もいる。
- これから頑張りたいという方々だけを集めて特区のようなものを作り、そこだけでお店を残すという考え方も可能ではないかな。
- 創業件数が減ってきており、外から人を呼び込むことが課題。
- 空き家対策や事業継承、創業の支援が課題。
- 商店街の中に色々な機能があることが必要。

8 まちなかエリアの 現状・課題に関するWGでの意見交換結果

商店街の可能性（ポテンシャル）

- ・ 夕方でも送迎等による車の混雑がなく、子どもと一緒に安心して歩くことができ、穏やかで時間がゆったり流れていると感じる。
- ・ 加茂での暮らしを整えることで、住んでいる人が笑顔で楽しく暮らしているのを外の人が見に来るということはありうる。
- ・ 日常をしっかり整えてあげることが、地域の魅力となる。
- ・ 日用品の買い物など生活利便性や季節のイベントごとも含めて、地元の人々の生活をよりよいものとし、その結果として、住んでいる人の日常を魅力資源として、観光につなげる考え方もある。

②水（加茂川）

- ・ 上河川空間がハレの日にはしか使われないのはもったいなく、日常の賑わい創出にも使えると良い。
- ・ 加茂川は、天気の良い日は加茂川に、飼い犬と一緒に出かけたいくなるような場所。
- ・ まちなかエリア（加茂川・加茂山含む）は、家族連れが週末にちょっと出かけるような観光のイメージ。
- ・ 加茂山や加茂川などの公共空間をどのように有効活用するのは重要。
- ・ 加茂川から加茂山公園へ人の流れをどのようにつなげていくかが重要。

②みどり（加茂山）

②まちなかエリア全体・まちなかエリア外との関係

- ・ 西加茂からまちなかエリアに人が流れるだけでもだいぶ違う。
- ・ 昔から、南北のつながりを意識して橋を架けてきたことから、加茂川を挟んだ南北方向は分断されていない。
- ・ 自転車や徒歩移動の場合、西加茂とまちなかエリアをつなぐ動線がなく、現状では、子どもや女性が夜に歩くには怖い。
- ・ 高校生は、駅から橋を渡って移動しており、川が南北の境界になっていないのはよいと思う。

9 エリアの課題

商店街

- ・加茂駅を利用する若者（高校生等）は多いものの、まちなかを素通りしている
- ・既存の賑わいは商店街を軸とした単調な動線となっており、回遊空間としての奥行に欠ける
- ・空き店舗・空き地の増加、店舗の住宅への転換により商店街らしさが弱まる
- ・イベントが定期的に行われ、一定の集客も見せているが商店街の活性化につながっていない

暮らし

- ・まちなかエリアの人口減少、高齢化が同時に進行している
- ・日常生活に密着した店舗など、まちなかエリアの暮らしを支える機能が弱まっている

交通

- ・鉄道で市街地が分断されており、東西の市街地の連携がなされていない
- ・西加茂～まちなかエリアを連絡する安全・安心な通行環境が不足
- ・公共駐車場は、イベント等のピーク時は不足しており、平常時も子ども連れ家族にとって使いにくい

水・緑 オープン スペース

- ・加茂川や加茂山公園はイベントなどで活用されているが、日常的な賑わいに活かされていない
- ・加茂川～商店街～加茂山公園の人の流れを生み出す動線や仕掛けが不足している

歴史文化

- ・蔵や町屋建築、旧庄屋建築、谷通りなど趣のある通りが残っているが交流・回遊資源としての活用が不十分
- ・活用されない歴史文化資源は次代に継承できなくなるおそれ

10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

WG検討での検討事項

エリアの目指す姿について、より深く検討するため、課題を踏まえて、空間としての3つのゾーンと、それらを結ぶ「つながり」の4つの検討テーマを設定

エリアの
課題

空間としての3つの
ゾーンと、それらを
結ぶ「つながり」

まち
(商店街)

みず
(加茂川)

みどり
(加茂山)

つながり

WGでの
検討内容

4つの検討テーマごとに、取組選択や優先順位設定の「基準」となるような「具体的なイメージ／ポイント」を検討

実現のための取組
(令和6年度検討)

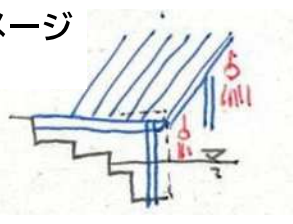
10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

まち（商店街）について

WGでの議論	
具体イメージ／ポイントに関する議論	・ 近隣地区住民がふらっと行きたくなる商店街になると良い。 ・ 多世代向けの色々な居場所があると、賑わいが生まれる。 ・ 大型店舗ではなく、商店街に行く理由は、「店主とのコミュニケーション」である。 ・ 生活者のニーズに対応できるような店舗や生活サービスを充実させる。また、回遊を生む上では飲食店（食べ歩き）が不足している。郊外のスーパー等との差別化を考える必要がある。 ・ 空き店舗が有効に利用され、時代のニーズに合わせた商店街としての新陳代謝が進むような仕組みが重要である。 ・ 商店街全体が加茂の名物・特産品・お土産も含め、加茂の良いモノが詰まった「ショーケース空間」になると良い。 ・ 具体的な取組としては商店街全体を「道の駅」とすることが有効である。市外の観光客がメインのターゲットではなく、まちなかエリアで暮らす人、加茂駅を利用する若者、まちなかエリア外の市民も楽しく過ごせ、幸せになれる「道の駅」にしたい。 ・ 歩行者天国等で回遊を楽しめるほか、高齢者がバスでアクセスしやすい交通環境をつくることが重要である。
シーン	・ まちなかエリアのこども園に子どもを迎えにいった帰りにお買い物。子どもの託児サービスを利用してきて便利。商店街で買い物すると託児料金が割引となり嬉しい。 ・ 商店街の飲食店に高校生や大学生が、学校帰り、休日に立ち寄っている。 ・ 日中は近所に住む高齢者が、井戸端会議を楽しんでいる（心も健康になる）。 ・ 商店街に子どもの遊び場ができて、街がにぎやかに、明るくなった。 ・ 加茂の名物や特産品・お土産などを買うことができ、市外の友人を連れてきた。 ・ まちなかエリアで乗降すると料金が優遇されるなど、公共交通システムが充実している。
参考	・ 商店街を道の駅化した事例あり。（岡山県 道の駅「山陽道やかげ宿」） ・ 道の駅は、無料で24時間利用可能な駐車場・トイレ（規模要件なし、分散配置可）、情報発信（交通、生活、観光レク）、地域連携機能を備えればよい。 ・ 駐車場：80台程度の道の駅の事例あり。 ・ 地元企業も参画したPFI手法等による整備事例あり。

10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

みず（加茂川）について

WGでの議論	
具体イメージ／ポイントに関する議論	- 特定の世代、特定の方々に限定するのではなく、老若男女、多くの市民が日常的に利用する空間を目指す。 季節感（春夏秋）を感じることができ、気軽に繰り返し訪れたくなるリビングを目指す。 多様な利用ニーズを共存させるため、佇み・憩いなど静的な使い方をするゾーンと、動的な使い方（若者のスケボー等）をするゾーンに分けて、日常の滞在者を増やす。 - 滞在する上で、夏場の日よけ（日陰）、座るところは必須（構造物による日よけは無理であるが、移動可能なビーチパラソルをたくさん配置することは可能）。 - 長時間の滞在を可能とするために、広々とした自然の中で飲食を楽しめる場を提供する。 - やすらぎ堤や川床（小京都のイメージ）を設けることで、川辺の訪問目的や滞在時間を増やす。 オールシーズン型のインスタ映えスポットとなるような空間を目指す。 ▶「加茂川の鯉のぼり」だけでなく、加茂川を訪れる仕掛けをオールシーズンで実施し、「加茂川に行けば何かが流れている／見ることができる」ようにする。 ルールを守ることを前提に、花火や焚火（焼き芋）などを楽しめるようにする（できるゾーンを指定）。    ■川床イメージ 
シーン	- 河川敷が自分らしく過ごせる場所となっている。 - スケボーする若者、ゲートボールする高齢者が、河川空間利用を時間や曜日でシェアリングしている。 - 短時間でも長時間でも誰もが自分らしい過ごし方ができる。 - 子供たちが楽しく水遊び（川レジャー：水切り・水生昆虫探し等）をしている。
参考	- 加茂川周辺の滞在者は、50代が大半で、20代は僅か。 ⇒50代以上の利用を大切にしながら、まずは若い世代の滞在アップが重要。 - 出水期（6月10日～9月3日）のイベントは調整が必要。 - 夏祭りの時期や鯉のぼりの時期は1日に1,000人～5,000人の人が滞在するため、大人数が腰かけられる場所が必要。現在、加茂川では火気を使う制限はないが、問題が生じると禁止されてしまう可能性がある。このため、焚火等を認める場合は、適正利用を促す仕組みも必要となる。

10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

みどり（加茂山）について

WGでの議論

具体イメージ／ポイントに関する議論

- 加茂山公園の特徴は、**まちなかにありながら自然の真っ只中**にいるような環境であり、**自然を前面に打ち出す**ことが有効である。子どもたちが遊びながら**自然を学ぶことができる**ようにしてはどうか（プレーパーク等）。
- 新潟市や三条市から家族連れが来ており、集客面ではポテンシャルが高い。
- 加茂山は身近な**里山的な存在**であり、まちなかにこのような「癒し」の**エリア**があるのは売りになる。
- 「癒し」の要素は、**神秘**、池の端、食である。「癒し」によって、訪問者の心と身体にリフレッシュやリラックスを提供できる。
- 加茂山公園は、大型ローラースライダーやリス園、民俗資料館、ハイキングコースなど多彩な魅力があり、**潤いを感じられる場所**である。
- 一方、初めて来た人にとって、どこにどう行ったらよいのかがわかりにくく、案内等情報が不足している。各施設への**案内や誘導路を充実**するほか、**総合的にホスピタリティを高める**必要がある。
- 青海神社のポテンシャルは高いが、滞在機能が弱い**。今でも茶屋があるが、意欲のある民間事業者が更に参入できる仕組みがあるとよい。コーヒー、お茶、会話を楽しめる**静かな賑わい**が生まれるとよい。
- 商店街から鳥居に至る道路は、歩道に景観舗装や水路が整備され、**景観的に優れているので、もっと活かす**ことが重要である。



シーン

- 加茂山に来るたびに、心も身体も健康になれる。
- 季節や時間帯（昼夜）を問わず訪れる場所になっている。
- 距離や標高、移動しやすく、利用しやすい公園になっている。
- 雨対策や暑さ対策、園路灯が充実しており、雨天や夏場、夜でも訪れやすい場所になっている。
- 子どもたちがツリーハウス、手作り遊具、どろんこ遊び、落ち葉プール、虫取り、古道探検など自然をわくわくしながら、環境の素晴らしさを学んでいる。

参考

- 加茂山公園の入込客数はコロナ前は約30万人であったが、回復途上にある。
- 加茂山公園の訪問者は、市内より近隣市（新潟市）からの利用者が多い状況にあるため、市民の利用を促進する必要がある。
- 現状、加茂山公園は平日に比べ休日の利用が少ない状況にある。
- 平日は、高齢者（60代以上）が多く、休日は、30代が少ない傾向にある。

10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

つながりについて

WGでの議論

具体イメージ／ポイントに関する議論

- ・ **加茂山、商店街、加茂川がそれぞれに魅力を高めておくことが重要。**また、市民の間で、**商店街、加茂川、加茂山への愛着が芽生え、そこからおもてなしへつなげていくムーブメントをつくる**ことが重要。
- ・ 1日の中で、例えば加茂山で遊び、商店街で買い物・飲食をし、加茂川で憩うなど、**まち・みず・みどりが連携してストーリーを生み出す**ことを目指す。
- ・ 現状では商店街、加茂川、加茂山のイベントが別々に行われているが、**一体感を醸成するため、まちなかエリア全体をフィールドとした連携イベント**を行う。
- ・ 一部区間（加茂山⇄商店街⇄加茂川）をシーズン又は時間を決めて歩行者天国とするなど、**回遊を生み出す環境を整える**。
- ・ 商店街では、加茂山や加茂川のおすすめ滞在スポットを紹介するなど**回遊を促す情報発信**を行う。



- ・ 学生（加茂農林高校等）や高齢者が**活躍できる場・機会を用意**することで、地域の活力が増し地域内の愛着が芽生えとともに、外からも魅力あふれるまちと認識され、好循環を創り出していくことができる。
- ・ まちの美化清掃活動や花いっぱい運動など**おもてなしの空間づくり活動の場や機会を提供できる仕組み**をつくる。
- ・ 空き店舗をチャレンジショップとして活用することが考えられるが、所有者との調整など、簡単にできない場合もあるため、加茂川や加茂山を**チャレンジ空間として活用できる仕組み**をつくる。



シーン

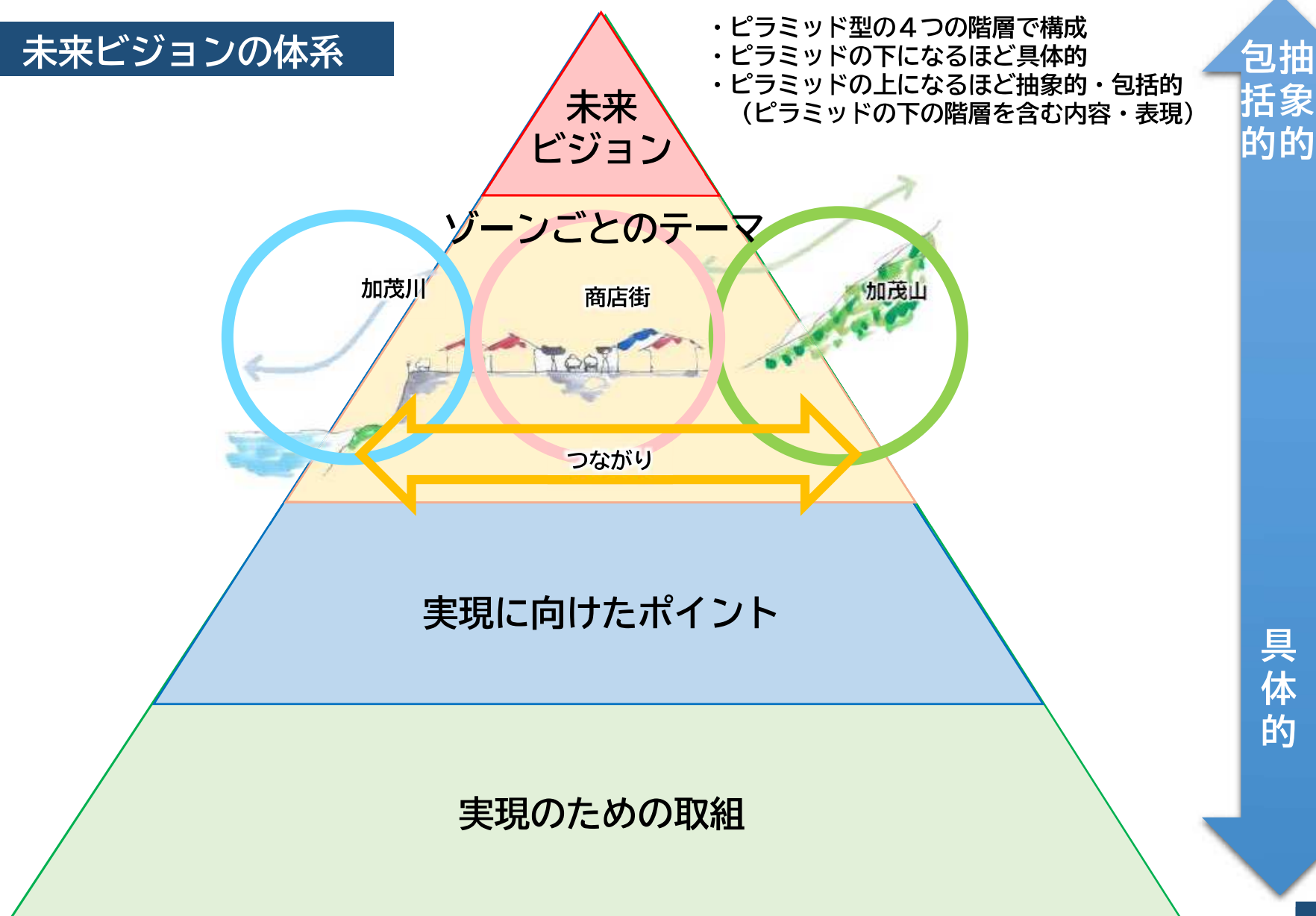
- ・ 農林高校の生徒さんが、農産物の販売や花壇の維持管理などプレイヤーとして活動している。
- ・ 加茂山で遊んで、商店街でショッピングやランチ、店主との会話を楽しみ、加茂川でビール・ドリンクを片手にまったりする。
- ・ 小京都加茂ツアーとして、みどり（加茂山）⇄まち（商店街）⇄みず（加茂川）を巡るツアーを実施している。
- ・ 加茂川の河川敷に仮設のチャレンジショップを開設し、実績を積み重ねたあと、地元金融機関の支援ももらって商店街の空き店舗で本格開業できた。

参考

- ・ 葵橋～穀町・本町（宮大門交差点）～青海神社は、現状でも歩行者通行量が相対的に多い。

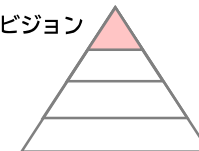
11 未来ビジョンの再構成(案)

未来ビジョンの体系



11 未来ビジョンの再構成(案)

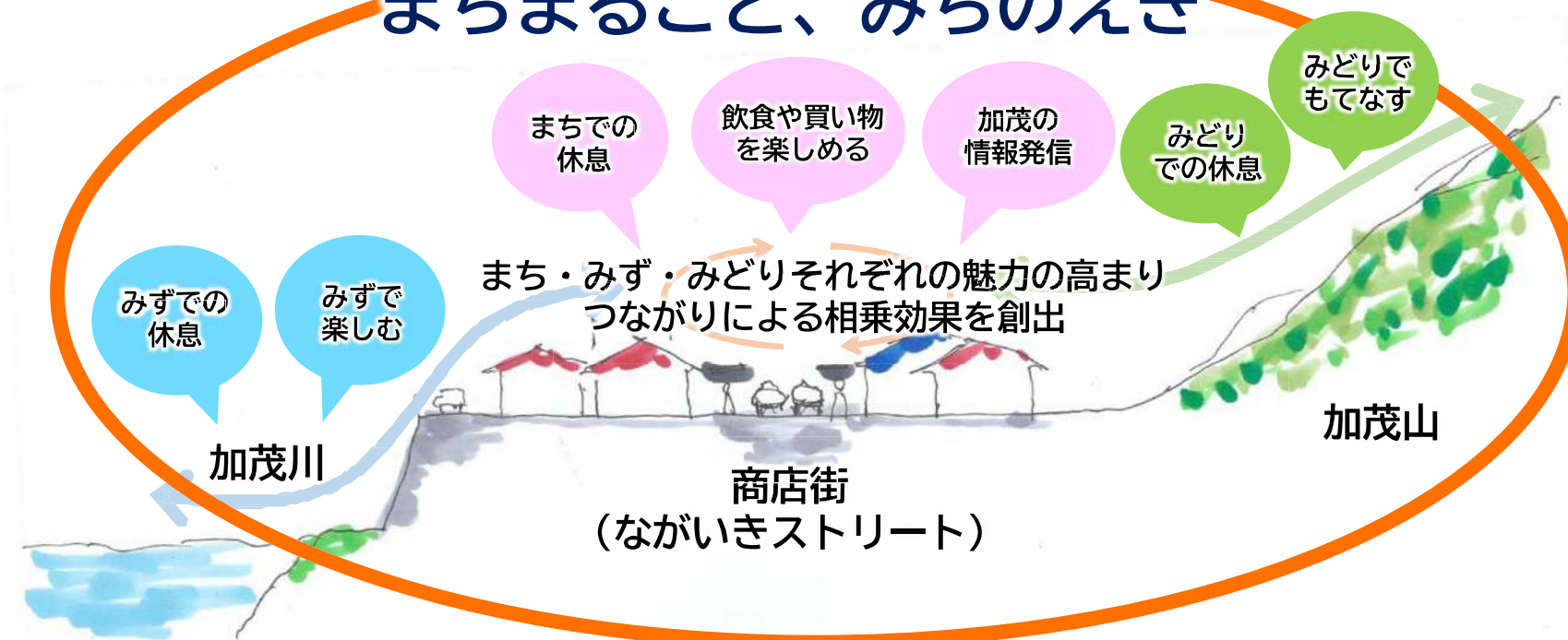
未来ビジョン



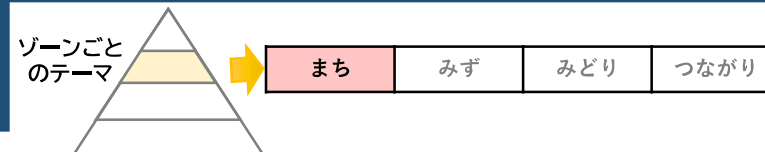
【未来ビジョン】 まちまるごと、みちのえき ~日常がとっておきになる~

- ながいきストリートを中心に飲食やお買い物を楽しめるほか、加茂山や加茂川を含めたエリア全体における【憩い・休息機能】、交流を生み、日常生活や地域コミュニティを支える【地域の連携機能】、加茂の魅力をまるごと体感・体験できる【情報発信機能】が詰まっている姿から、まちなかエリアをまるごと1つの「みちのえき」として位置づけます。
- 「みちのえき」には、「未知」や「益」という意味も込めています。まだ知らない加茂の魅力があること、新たな人との出会いを秘めていること、商店街やいろんな活動が起こる水辺、悠久の時を感じる神社や公園など、加茂のまちなかに詰まっているたくさんの可能性を花開かせ、賑わいや交流、消費といった利益や価値を生み出していくことを目指します。これにより、このまちで過ごす、暮らす、働く時間を、「とっておきの日常」に仕立てていきます。

まちまるごと、みちのえき



11 未来ビジョンの再構成(案)



ゾーンごとのテーマ

まち(商店街)

【説明】

ワンデイ

【ワンデイに込められた3つの願い】

- ・ **(過去の) ある日**：ながいきストリートとしてこれまで続けてきた、交流を生み出す店舗の価値を大切に受け継ぐ
- ・ **(今の) 1日**：訪れた人がこのエリアの中で1日を楽しく過ごすことができる
- ・ **(未来の) ある日**：これからもとっておきの日常が続いていく(※私たちの意志や努力で実現させるもの)

ストリート
STORE × EAT
(店舗) (食べ物)

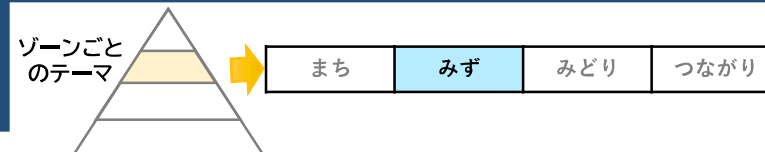
気軽に立ち寄れる「STORE(店舗)」と美味しい「EAT(食べ物)」が集まることで、1日中楽しめる「**STREET**(商店街)」に人が集う

ストリート ◆ワンデイ **STORE × EAT**

これまで長く続いてきた商店街の持つ温かさや心地よさは受け継ぎながら、新たな価値観に合ったお店、ニーズをとらえた食べ物など、沢山の「いいね!」が詰まったストリート空間が、地域をめぐる元気の源となって豊かなまちの魅力を伝えます。



11 未来ビジョンの再構成(案)



ゾーンごとのテーマ

みず(加茂川)

【説明】

みな(も)の

【みなも(水面)】

- 河川敷を舞台に、鯉のぼりをはじめとして四季折々の水面に映しだされる心に残る風景やアクティビティを楽しむ場所

【みな(皆)の】

- 多様な使い方が共存でき、それぞれの感じる楽しさや心地良さをシェアすることで、新たな出会い・交流が生まれる場所

リビング

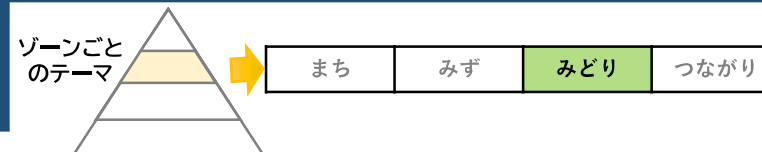
- 居心地の良い日常空間として、開放感にあふれたお気に入りの過ごし方ができる場所

◆みな(も)のリビング

水辺の多様な使い方が共存でき、お気に入りの過ごし方がシェアできる「皆のリビング」として、誰にとっても居心地の良い場所であるとともに、四季の変化や新たな人との出会い・交流が生まれる「水面のリビング」として楽しさがあふれます。



11 未来ビジョンの再構成(案)



ゾーンごとのテーマ

みどり(加茂山)

◆うらやまテラス

自然と歴史が一体となって風格を感じさせ、このまち自慢のおもてなし空間であるうらやまは、まちなかにいることを思わず忘れてしまうような没入体験の機会が充実していくことで、訪れた人のココロを癒し、カラダに潤いをもたらします。

【説明】

うらやま

【裏山／羨ま(しい)】

- ・ JR加茂駅から徒歩5分という、他の地域ではまず見られない、こんなにも豊かな自然あふれる里山が中心市街地に密接した環境は、加茂にこのような場所があることが「羨ましい」と思われるようなおもてなし(表なし≡裏)の空間

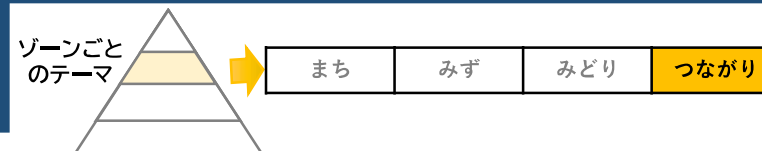
テラス

【テラス／照らす】

- ・ 水面のリビングに対して、自然が形づくったテラスは、青海神社を含む歴史や文化と相まって、木々の合間から差し込む光が訪れた人たちの心と体を照らし、癒しや潤いをもたらす空間



11 未来ビジョンの再構成(案)



ゾーンごとのテーマ

つながり

◆ 加茂市愛の醸し合い

まち、みず、みどりの魅力を市民が愛着を持って磨き上げ、一体感を醸成するような仕組み／仕掛けづくりを進めることで、ついお出かけしたくなる、選ばれる場所へと加茂のまちなかを仕立て上げ、ひと・もの・ことの好循環を創出します。

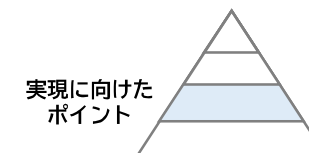
【説明】

加茂市愛：各ゾーンへの愛着(シビックプライド)を深める

醸し合い：ゾーン間のつながりが一体感を醸成する



11 未来ビジョンの再構成(案)



実現に向けたポイント

実現に向けたポイント		「まちまるごと、みちのえき」の機能	①憩い・休息機能	②加茂の情報発信機能	③地域の連携機能
まち (商店街)	加茂のショーケースとなる飲食店や物販店（特産品含む）や暮らしを支える生活サービスの拡充			●	●
	日常的な買い物のしやすさの向上（交通利便性の向上など）				●
	広場や公園、子どもたちが安心して遊べる空間など、人がいる日常風景を生み出す居場所づくり（滞在快適性の向上など）	●			●
	人中心の歩きやすいまちづくり（道路空間の使い方の更なる工夫など）				●
みず (加茂川)	四季を通じた訪問目的の充実（鯉のぼりの時期以外におけるイベントの開催や映えスポットになる仕掛けなど）			●	●
	利活用を促す環境の整備（河川敷のしつらえの改善、河川利活用のルールづくりや情報発信など）			●	●
	多様な利用シーンが共存できるような利用エリアの設定（ゾーニング）	●			●
	滞在環境の充実（ベンチ、日よけ、手軽な飲食サービスの提供など）	●			
みどり (加茂山)	おもてなし、おでむかえなどホスピタリティの感じられる景観づくり（ゲート・エントランスとなる道路等の沿道の景観づくり）			●	
	わかりやすい案内サインや情報発信などの充実			●	
	歴史文化的な環境と調和した憩いや佇み環境の充実	●			
	生物の多様性や自然体験などの環境学習の場や機会の充実				●
つながり	まち、みず、みどりをつなぐ仕掛けづくり（商店街⇄加茂川⇄加茂山の間で人の流れを生み出す動線整備、情報発信、イベント開催など）			●	●
	おもてなし空間づくり活動の促進（美化清掃、加茂だからこその風景づくりなど）	●		●	
	若者を中心に、チャレンジする場や活躍の機会を提供する仕組みづくり			●	●
	まちづくりの新たな担い手を増やす取組の充実				●

【参考】エリアの将来イメージ

【まち】ワンデイ STORE×EAT

新たな価値観に合ったお店、ニーズをとらえた食べ物など、沢山の「いいね！」が詰まったストリート空間が、豊かなまちの魅力を伝える。



【つながり】加茂市愛の醸し合い

まち、みず、みどりの魅力を市民が愛着を持って磨き上げ、一体感を醸成することで、ついお出かけしたくなる、選ばれる場所へと加茂のまちなかを仕立て上げる



【みず】みな(も)のリビング

誰にとっても居心地の良い場所であるとともに、四季の変化や新たな人との出会い・交流が生まれる「水面のリビング」として楽しさがあふれる。



【みどり】うらやまテラス

まちなかにいることを思わず忘れてしまうような没入体験の機会が充実していくことで、訪れた人のココロを癒し、カラダに潤いをもたらす。



第4回加茂市エリアプラットフォーム準備協議会 議事要旨

1 日時：2024 年 3 月 13 日（水）午後 2 時から 4 時

2 場所：加茂市役所 3 階 301・302 会議室

3 出席者（敬称略）

委員：木戸委員代理 堀内 大祐（加茂商工会議所まちづくり委員会）

田邊 良夫（加茂市商店街協同組合 理事長）

萩野 正和（株式会社 connel 代表取締役）

松井 大輔（新潟工学部工学科 准教授）

加藤 はと子（全国「道の駅」女性駅長会 会長）

高澤 浩（第四北越銀行 加茂支店 支店長）

杵鞭 久（加茂信用金庫 理事長）

小林 一隆（NST 新潟総合テレビ 情報制作本部 デジタルマーケティング部 部長）

市川 恭嗣（加茂市 CSO）

渋谷 美浩（新潟県三条地域振興局 局長）

西村 太佑（加茂青年会議所 理事長）

横山委員代理 落合 純（新潟経営大学 地域活性化研究所 副所長）

若月 守（NTT 東日本 新潟支店 副支店長）

藤田 明美（加茂市 市長）

事務局：政策推進室、(株)オリエンタルコンサルタンツ

4 議事

（1）開会

（2）資料等の説明

1）エリアの目指すビジョンの検討とその実現に向けて

事務局から「資料 5 令和 5 年度の検討のまとめ」及び「資料 6」「資料 7」の説明があった。

2）質疑応答及び意見交換

【松井委員】 当分の間、エリアプラットフォームの事務局は加茂市が担うことになり、まちづくり会社等が組成された際には、事務局が移行することになるのか。事務局が移行する場合、規約「第8条（1）第3条第1項第1号に定める活動に要する経費等：事務局負担とする」に従って、まちづくり会社が事務局として経費を負担することになると思うが、まちづくり会社の資金源等の考えを伺いたい。

【事務局】 民間のまちづくり会社が発足し、それが事務局を担うことでより未来ビジョンの実現に向けて取組・事業が推進されると見込まれた場合には、まちづくり会社が事務局を担うことを想定する。しかし、現時点で具体的に想定する団体・組織があるわけではないため、規約の記載内容は、あくまでも加茂市が事務局を務める限りでの内容と理解していただきたい。加茂市ではなく、民間の事業者や公益団体が事務局を担う際の取り決めは、改めて検討することになる。

【市川委員】 規約は、事務局を加茂市が務める上での暫定的なものであると認識した。今後、状況に応じて規約が更新されていくことと思うが、規約（案）には、更新に関する記述がない。規約の変更に関する考えを伺いたい。

【事務局】 規約の変更に関する記述がない理由としては、エリアプラットフォームが他の組織体と性質が異なるため、どのように定義すべきか苦慮しているためである。規約を変更する場合には、どの会議体に諮るか等を記載することになると思う。会議体としては、全体会が考えられるが、皆様が集まらない場合には、電子書面による協議で諮る方法も考えられる。規約への記載方法は、皆様からご意見を伺いたい。

【萩野委員】 エリアプラットフォームの取組みは、近年全国的に活発化しはじめたものであり、規約を公表している団体も数少ないため、決まった規約の形はない。一般的な組織としての規約は当然あるが、加茂市のエリアプラットフォームの場合は、資料5、P.8にも記載されている通り「情報・課題・方針の共有の場」であり、組織ではない。組織ではない場合の決裁の取り方は、方法が多様にあり、会員数や、会員のエリアプラットフォームへの関わり方によって方法を見定めていく必要がある。

【市川委員】 本規約は、今後対外的に公表する想定であるか。

【事務局】 HP等で公表する想定である。

【杵鞭委員】 P.9～10の次年度のスケジュール（案）について、検討事項のボリュームが非常に多いと感じた。その中で、第1回全体会後に市民意見の募集と反映とあ

るが、広く意見を集めて未来ビジョンに反映することは、非常に大変なのではないか。現時点での想定があれば伺いたい。

【事務局】資料5には「市民意見の募集と反映」と表現をしているが、この想定としては、これまで皆様と検討してきた未来ビジョンについて、まずは発信し、認知してもらい、共感していただくきっかけづくりを行うことと考えている。そのため、一般的なパブリックコメントのように意見を募集し、その意見一つ一つへの回答を公表したり、未来ビジョンへの反映を検討したりするような想定ではない。

【市川委員】未来ビジョンに関する市民意見の募集の方法は、シンポジウムの中で意見募集を行う想定か。もしくは、シンポジウムとは別にパブリックコメントのようなことを実施する想定か。

【事務局】事務局としては、シンポジウム形式で市民意見を募集する想定であり、併せて、シンポジウムに来られなかった方の意見も募集できるように、HPに掲載の上、パブリックコメントの形式での意見収集も行いたいと考えている。

【市川委員】シンポジウムの実施方法の想定を伺いたい。

【事務局】シンポジウムは、セッション型でその場での対話も含めて実施したい。また、アンケート形式による意見収集も行う想定である。

【小林委員】シンポジウムはどの程度の規模で実施する想定であるか。また、広報をする際に市外の方の参加もあると思うが、市外の方へのPR方法等も想定するものがあれば伺いたい。

【事務局】新潟市で実施したシンポジウムのイメージを萩野委員に共有していただきたい。

【萩野委員】新潟市では、未来ビジョン策定した段階でその発表も兼ねてシンポジウムを実施した。シンポジウムは2部構成で実施し、第1部は若い人（学生や20～30代）を対象に声掛けして、ワークショップ形式で実施した。ワークショップは、「エリアごとに実施したいこと」や、「こんな取組み・活動があったらいい」といったことをテーマとして実施した。第2部では、その意見をもって、ワークショップの各班の代表者でパネルディスカッションを行った。その他にも、専門家の基調講演や市職員、国土交通省の職員によるトークセッションも実施した。参加者数は、200～300人程度であった。

【事務局】シンポジウムは、萩野委員から説明があったような内容も踏まえて、今後のWGで提案し、皆様からご意見いただきたい。また、シンポジウムには、市外の方や外部のプレイヤーを招くことも考えられる。事務局では、新潟市のエリアプラットフォームの取組に勉強に伺ったりもしており、その場でPRさせていただくこと等も考えられる。そのあたりの可能性も今後探っていきたい。

【市川委員】加茂市では、過去2年間、商工会議所を主催にまちづくりフォーラムが開催されている。来年度のまちづくり委員会の活動計画の中で、例えばエリアプラットフォームとの共同事業のような形式でシンポジウムを開催できると、市内で幅広く発信ができると考える。スケジュール的に難しい場合は無理にとは言わないが、是非検討してみたい。

【堀内委員】限られたスケジュールの中での難しさはあるが、是非検討できたらと思う。

【加藤委員】未来ビジョンに関して、「市民意見の募集と反映」と記載していることから、少し誤解もあるが、実際は広報活動であると認識する。PR方法については、内部へのPRと外部へのPRの方法を分けて検討すべきと考える。外部に関しては、シンポジウムの場を設けて、メディアの方を招待し、報道していただくことや、国土交通省のサイト等で発信していただくこと等が効果的であるとする。一方で、内部へのPRに関しては、シンポジウムだけで発信するのは乱暴であると感じる。例えば、三条市では、三条マルシェというキーとなるイベントが定期的で開催されており、その中で他の催し事等があれば、共同開催でPR活動を実施している。定期的な実施されるイベント等をうまく活用して、そこに来る人に対してPRしていくなど、小さいことをコツコツ行っていく方が、市民により浸透していくと考えるため、是非検討していただきたい。

【市川委員】加茂市はイベントが多いため、是非主催者側に協力していただきながら周知できると良い。

【加藤委員】既存のイベントに絡められると事務局の負担も減ると考える。

【小林委員】広報を考える際に、実際にプレイヤーとなり得る方や地域で活動されている団体等を招待して講演していただけると、加茂市をPRすることにもなり、聞き手も内容を理解しやすいものとする。

【萩野委員】加茂市の場合は、教育や福祉など様々な分野についての議論が必要であり、狭義の意味ではなく、広義の意味でのまちづくり活動の検討が必要になる。新

潟市では、企業誘致や経済面の検討に力をいれてエリアプラットフォームの活動が進められており、その中でテーマに即したプレイヤーを招待して講演をさせていただいている。また、PR 方法については、コロナ禍を受けて全国的にセミナーの内容も充実している。例えば、東京で開催されるセミナーに参加して、加茂市の内容を発信することや、新潟市等で発信することなど、対外の PR も同時に進めていくことも重要と考える。

【渋谷委員】資料 5、P.10 の令和 7 年 3 月頃に「令和 8 年度上半期で実施する取組の準備」と記載されているが、正しくは「令和 7 年度上半期」ではないか。また、令和 7 年度 of 取組について、例えば 1 年間程度は社会実験等を実施し、まちづくり会社のあり方を検討することが必要と考える。実験的な取組みをすると、弱点や課題が浮き彫りとなり、そこを改善しながら、まちづくり会社としてのあり方を見定めていくことができる。また、未来ビジョンのキャッチフレーズで「まちまるごと、みちのえき」という素晴らしいフレーズを設定しているため、これらをもとに社会実験を開催した際の反響も検証できると良い。例えば、田上町まちの「たがみバンブーブー」は、当初赤字収支の予測であったが、2 万 5 千人もの来場者を集めた。近隣にはそのようなノウハウを持たれた方もおり、そのような方も招待しながら、キャッチフレーズに即した良い活動ができると良い。

【事務局】スケジュール（案）について、渋谷委員のご指摘のとおり、正しくは「令和 7 年度上半期で実施する取組の準備」である。

【落合委員】エリアプラットフォームが設立した際に、構成員として参画するメリットはあるのか。そこが不明確であると同じメンバーで検討が進められるだけになると感じる。

【事務局】エリアプラットフォームの組成には第 1 ステップと第 2 ステップがあると思う。第 1 ステップの中では、新たに構成員を増やしていく想定はしていないため、第 2 ステップ以降のフェーズについて説明する。未来ビジョンの検討については、当然絵を描くことが目的ではなく、まちづくりの中での事業・取組に結び付けていくことが重要と考える。事業を創出する段階においては、ビジネスチャンスがあることを未来ビジョンに位置付けることにより、多様な方が参加する意義になると考える。その点は、来年度の活動の中でご意見いただきたい。

【西村委員】ワーキンググループやプレイヤー、企画グループといった組織名称がでてきているが、それぞれ同義であるか。

【事務局】今年度実施してきた準備協議会を全体会と据えて、ワーキンググループは、2月20日にも開催したが、実務メンバーをもとに物事を検討する場と定義している。資料5、P.8に、新たに企画グループの名称を記載しているが、これは例えば、イベントを開催する際の実行委員会と想定していただけると良い。

【西村委員】企画グループのような組織が増えていくことが、非常に重要と考える。例えば、何か実施したいが資金が足りないとか、参画したいが敷居が高いとか、そのような悩みを抱える団体も複数あるため、エリアプラットフォームの活動の中で、実行組織の意向を調査しながら、活動の方向性を検討できると良い。

【高澤委員】各会に参加をする中で、エリアプラットフォームは、未来ビジョンを策定するための組織体であることを理解した。また、未来ビジョンの策定に向けては、広報活動が非常に重要であると感じた。未来ビジョンでは、キャッチーなフレーズもでてきたが、それぞれの意味合いを初見で理解してもらうのは、非常に難しいと考える。そのため、シンポジウムの前段階から広報活動を行うなど、少しずつ市民にすり込んでいくことが重要と考える。

【加藤委員】来年度のスケジュールの中で、未来ビジョンの検討と、まちづくり会社の検討は分けた方が良い。未来ビジョンの検討にまちづくり会社についても含まれることと思うが、まちづくり会社の検討は、経営面の観点で事業規模や原資についての検討が必要となり、非常に専門性が高い。全国的にも、組織の検討をする際に、まちづくり会社ありきでの検討が進み、複数の検討案がでてくるが、実際はやりきれない事例も多々ある。ぼやっとまちづくり会社を検討するようなことはやめた方が良い。しっかりとした事業計画を立てることを前提として、その専門性のある人を交えて検討すべきと考える。

【杵鞭委員】本日は報道の方々も来ており、発信がされることと思うため、少しでも市民に認知され、まずはスタートラインに立てっていただけるだけでも良いと思う。

【松井委員】次年度のスケジュール（案）に関して、下半期のエリアプラットフォームとして取り組む内容の検討や、令和8年度の上半期で実施する取組の準備とあるが、少し固い印象を持った。取組みの中には、既に動いている事業もあることや、加茂市は新潟市と違って企業がでてくるといったフェーズでもないことから、実験的にまずは動き出すことも想定される。あくまでもスケジュール（案）であるが、その際の対応等も検討いただけると良い。

【若月委員】スケジュール（案）を見た時に皆の意識が合っているかが懸念される。P.8の図をみると、エリアプラットフォームに参画される市民・企業・団体がおり、これは企画グループを増やす際に参画していただくことと認識する。その具体的な時期は、スケジュール（案）をみると早くてR6年11月、もしくはR7年4月以降と読み取ることができるため、いつを想定するのか伺いたい。また、企画グループには呼び水みたいな存在が必要と考える。

【事務局】第1ステップの段階では、エリアプラットフォームに新たに参加していただく参加してもらう想定ではなく、エリアプラットフォームに紐づく企画グループの中に参加される方を増やしていきたいと考える。また、スケジュール（案）については、まずはたたき（案）を作成の上、本日は皆様に諮る必要があると考えていた。非常にタイトなスケジュールにもなっているが、一番重要なことは、納得感をもって未来ビジョンを検討する事であると考えているため、スケジュール（案）のとおり10月までに未来ビジョンを策定するかの可否も皆様との議論の中で検討したい。

【田邊委員】エリアプラットフォーム設立に向けて、まちづくりとして非常に良い段階であると思う。商工会議所にもまちづくり委員会があり、最終的な狙いは、エリアプラットフォームと概ね同様の内容を検討している。是非、まちづくり委員会とも連携しながら進められると良いと考える。

【事務局】商工会議所のまちづくり委員会からも本日2名参加されており、まちづくり委員会と連携を深めることは、当初から検討している。しかし、未来ビジョンの方向性が決まらない段階では、商工会議所も受け止めに難しいと考えるため、まずはビジョンの検討を進めて、ビジョン策定後に、まちづくり委員会との連携を図っていけると良いと考える。

【田邊委員】承知した。

【事務局】本日は、加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会であったが、今後は、加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームとして、検討を進めていく形式で良いか。

【各委員】異議なし。

【事務局】それでは、本日説明した加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム規約（案）の（案）を消して、規約とさせていただきます。規約については、再度皆様に共有する。最後皆様から一言いただきたい。

【堀内委員】未来ビジョン（案）が出てきたことにより、わくわくすることの大事さを感じた。今後ビジョンを共有していく中で、未来を担う子どもたちのシビックプライドを高めていくことや、中学生や高校生と大人たちが未来を語っていけるようになると良いと思う。

【田邊委員】未来ビジョンの説明を聞いて、非常に発想が良いと感じた。今後実行に入る際に、若者にとって住み良いまちになっていくと良いと思う。

【杵鞭委員】加茂川鯉のぼりや加茂山の青梅神社など、加茂には魅力的なものがたくさんある。だからこそPRが大事である。商店街や商工会議所でも、多様な取り組みをやってみよう、考えてみようという時期に来ている。それも踏まえて、今良い状態になってきていると考えるため、是非、中途半端にならないようにしていきたい。

【高澤委員】今後未来ビジョンが策定されると、まちづくりの理念が掲げられ、戦略や取り組みも具体化していくと思う。その際に微力ながらこれまでの経験踏まえて、意見出しさせていただきたい。

【小林委員】広報についての議論もあったが、この取り組みを発信し、ビジネスチャンスとして認識してもらうためには、加茂がどんなまちになるかを知ってもらうとともに、加茂のブランド力も高めていく必要がある。シビックプライドに関するコメントもあったが、加茂に住む人・関わる人が口をそろえて、加茂はいいまちであると言えることが大事だと思う。この活動を通じて、そのような環境を作っていきたい。

【加藤委員】全国のまちづくりに関わらせていただいているが、このように地元に関われることは非常にありがたい。一つ懸念としては、日頃から道の駅に関することに携わることがある中で、未来ビジョンのコンセプトにある「まちまるごとみちのえき」が報道で出てしまうと、加茂に道の駅ができると捉えられてしまうこともあると感じている。

【渋谷委員】加茂のまちなかには素晴らしい素材があるため、それを少しでも具現化できると良いと思う。

【落合委員】加茂に来てからもう少しで10年ぐらいが経つ。当時を思い返しながら、加茂はいいまちであると思うため、加茂にある大学関係者として、今後も協力していきたい。

【西村委員】加茂市の市民から「まちなかをなんとかしなくてはいけない」、「より良くしていかななくてはいけない」という声が多く集まるほど良いと思う。ただ、そのような声は現時点では少数であるため、未来ビジョンを発信しながら、そのように思ってもらえる人数を徐々に増やしていけると良い。

【若月委員】未来ビジョンをブラッシュアップしていくことも大事であるが、いかに取組みを実行し、失敗を繰り返しながら取組みをブラッシュアップしていくことが大事だと考える。

【松井委員】地元の方と話すことが楽しいと感じた 1 年だった。私の専門は都市計画（景観・都市デザイン）であるが、今回のことを通じて、都市再生やマーケティングについて話を聞けて良かった。新潟大学としても、地域連携に力をいれているため、今後も関わっていきたい。

【萩野委員】準備協議会・ワーキングを重ねて、一定の方向性が浮かび上がってきたことで、エリアプラットフォームの設立に至ったと思う。本日の議論を受けて、今後の取組みをこれまでの焼き直しにしないことが重要であると感じた。現時点では、今後の具体の取組みは見えていないため、それを次のフェーズとして議論できると良い。官民連携で議論を行うエリアプラットフォームの場で、一緒に検討していきたい。

【藤田市長】皆様のように多様な専門の方に参加していただくことで、より良いものができると感じた。今後は、皆様から意見があったように、加茂市の方が、遠目から取組みを眺めるのではなく、自分事としてかかわっていただくことが重要と考える。次年度策定する未来ビジョンが今後加茂市を明るく照らす素材になると良いと考えるため、是非お力添えしていただきたい。

以 上

第3回加茂市エリアプラットフォーム準備協議会 議事要旨（概要）

発言者	発言内容	事務局回答
松井委員	エリアプラットフォームの事務局をまちづくり会社等に移行する場合、経費に関するまちづくり会社の資金源等の考えを伺いたい。	民間のまちづくり会社が発足し、事務局を担うことでより未来ビジョンの実現に向けて取組・事業が推進されると見込まれた場合には、事務局を移行する想定である。経費に関する規約の記載内容は、あくまでも加茂市が事務局を務める限りでの内容と理解していただきたい。
市川委員	規約の変更・更新に関する考えを伺いたい。	エリアプラットフォームが他の組織体と性質が異なるため、どのように定義すべきか苦慮している。基本的には、規約を変更する場合には、どの会議体で諮るか等を記載すべきであると考えている。
萩野委員	加茂市のエリアプラットフォームは、「情報・課題・方針の共有の場」であり、組織ではない。組織ではない場合の決済の取り方は、方法が多様にあり、会員数や会員の関わり方によって、方法を見定めていく必要がある。	
杵鞭委員	次年度のスケジュール（案）について、第1回全体会後に「市民意見の募集と反映」とあるが、この際の現時点での想定を伺いたい。	未来ビジョンについて、まずは発信し、認知してもらい、共感していただくきっかけづくりを行うことを考えている。
市川委員	未来ビジョンに関する市民意見の募集の方法は、シンポジウムの中で意見募集を行う想定か。また、シンポジウムの実施方法の想定を伺いたい。	シンポジウム形式で市民意見を募集する想定であり、併せてシンポジウムに来られなかった方の意見も募集できるように、HPに掲載の上、パブリックコメントの形式で意見収集も行いたい。シンポジウムは、セッション型でその場での対話や、アンケート形式による意見収集も行う想定である。
小林委員	シンポジウムを広報する際には市外の方へのPR方法等の想定を伺いたい。	シンポジウムには、市外の方や外部のプレイヤーを招くことも考えられる。事務局では、新潟市のエリアプラットフォームの取組に勉強に伺ったりもしており、その場でPRさせていただくこと等、PRの方法・可能性は今後探っていく。
市川委員	加茂市では、過去2年間、商工会議所を主催にまちづくりフォーラムが開催されている。そこと共同事業のような形式でシンポジウムを開催できると、市内で幅広く発信ができると考える。	
加藤委員	未来ビジョンのPR方法は、内部へのPRと外部へのPR方法を分けて検討すべきである。内部に関して	

	は、シンポジウムだけでなく、既存にあるイベントに併せてコソコソと周知できると良い。	
小林委員	広報は、プレイヤーとなり得る方や地域で活動されている団体等を招待して講演していただけると、加茂市をPRすることにもつながり、聞き手も理解しやすい。	
萩野委員	加茂市の場合は、様々な分野についての議論が必要であり、狭義の意味ではなく、広義の意味でのまちづくり活動の検討が必要。	
渋谷委員	まちづくり会社について、例えば1年間程度の期間をかけて社会実験等を実施し、あり方を検討することが必要。	
加藤委員	来年度のスケジュールの中で、未来ビジョンの検討と、まちづくり会社の検討は分けるべき。まちづくり会社の検討は、事業計画を立てることを前提として、専門性のある人を交えての検討が必要。	
落合委員	エリアプラットフォームが設立した際に、構成員として参画するメリットはあるか。	未来ビジョンの検討は、事業・取組と結び付け、ビジネスチャンスがあることを示すことで、多様な方にも参画いただく意義を示す想定である。
西村委員	ワーキンググループやプレイヤー、企画グループといった名称があるが、それぞれ同義であるか。	今年度実施してきた準備協議会を全体会、ワーキンググループを物事の検討の場と定義する。企画グループは、イベント開催等に関する実行委員会を想定する。
松井委員	次年度のスケジュール（案）に関して、既存で動いている取組みもあることから、実験的にまずは動き出すことが必要。	まずはエリアプラットフォームの構成員を増やすのではなく、エリアプラットフォームに紐づく企画グループに参加される方を増やしていく想定である。スケジュールで重要なことは、納得感をもって検討進める事であり、未来ビジョンの策定期間も含めて今後検討したい。
若月委員	エリアプラットフォームに参画される市民・企業・団体を増やしていく時期の認識を共有した方が良い。また、企画グループには呼び水のような存在が必要。	